

聖霊は救い

聖霊降臨の主日 0年

聖霊降臨の祝日に、私たちは聖霊が全教会の心に住まわれたことを祝います。あの時から聖霊に貫かれている教会は、世紀にわたって、全世界のすべての人々に神の救いを宣言し、望む人にその救いを贈られます。しかし、救いとは何でしょうか。神の救いを受けるとは、どんなことでしょうか。初聖体のために学んだ公教要理によれば、救いとはキリスト者が死後、天国に入ることでした。しかし、聖書において神の民の歴史が進んでいくにつれて、救いという観念はより豊かなものになっていきます。

実は、人間生活の中で神のすべての営みは、救いの性質を持っています。たとえば、神は人間を創造されたとき、彼らが無の中にとどまらないように、無から救われたのです。しかし、創造された人間は弱く、時々病や飢え渴き、恐れ、不安、敵の恐怖に脅かされています。ですから、経験している悪からの解放として、救いを考えるようになります。病、飢え渴き、恐れ、命を奪うもの、もしくは、何らかの危害を加えようとするものから救われたいのです。経験している悪には、さまざまな種類がありますが、おそらく最悪なことは外からのものではなく、内からのもの、すなわち、人間は、自ら進んで、しかも常に善いことを行いたいと望みながらも、それを行うことができないということでしょう。例えて言うと、桃の木とりんごの木は、実を結ぶためにあるのですから、実を結ばないなら、それは不毛だと言えます。それらの木は不毛の状態から救われる必要があるでしょう。しかし、たいてい桃の木やりんごの木は時が来ると実を結びます。しかし、人間についてそんなことは言えません。私たちは悪を行うことへの傾きをもっているだけでなく、実際に悪を犯す者です。そういう意味で、その限りにおいて、私たちの存在は、不毛だけでなく、自分に、他の人に、事物にさまざまな被害をもたらすのです。確かに、結ぶべき実を結べるように、不毛からも、悪を犯すことから救われる必要があるのです。

一方、神は私たちの状態を御存じです。私たちの不毛なことも悪も御存じです。そして憐れみ深い方として、そこからの救いを与えてくださいます。その救いとは、まさに、神に似た者としてくださるために、私たちを神化してくださるのです。実を結ぶ木は木として完全ですが、それをそのまま、人間に当てはめることはできません。結ぶべき実を結ぶために、単なる人間的なレベルにとどまることはできません。人間として結ぶべき実を結ぶためには、どうしても、神からの光と力を必要とします。すなわち、神に似た者となり、神化される必要があります。神化されるとは、主イエスの聖霊を受けることです。その聖霊によって、主イエスご自身はおとめから生まれ、人間でありながら、神の聖性をご自分の生活において輝かせ、十字架の死にいたるまでみ旨に忠実に従い、死ぬことのない命を生きられるように、死から救われて、復活されたのです。聖霊という偉大な賜物をいただくなら、私たちの体は神の神殿となり、次第に自分たちの内に住んでいる罪に打ち勝って、結ぶ実とは単なる人間的なものではなく、聖霊の実なのです。

したがって、救われるとは聖霊を受けることにあります。聖霊を受けるとは、神の愛が私たちの心に注がれることです。そうした愛は、限界のない愛であり、全面的に無条件で与えられるものです。しかも、そうした愛は光の源でもあります。それによって、その時まで知ることのなかった世界を知ることになり、その中に生きることが可能になります。たとえば、自分たちの生活に多くの良いものをいただいているのを

認めますが、聖霊という賜物である愛の光に照らされて、それらの良いものの源が、神そのものであるのを知るようになります。また、その光に照らして、すべてのものが神の愛のメッセンジャー(使者)でもあることを認めるようになります。当然、その中の偉大なメッセンジャーが御父の御子であると分かるでしょう。しかし、メッセンジャーだけではありません。聖霊に照らされて、御子が御父からのプレゼントであることも悟ります。もちろん、御子もご自分のすべてを私たちにお与えになりました。ご自分の母マリアを与え、受難、死、復活の結果、ご自分の住まいとしておられた聖霊も私たちにお与えになりました。それで私たちは、御父の養子にいただいたのです。愛からの光でその世界が開かれ、その中に住むようになります。御父の養子として、死後私たちを待っている永遠の生命の相続人になるのです。救われるというのは、そういう豊かな意味を持っています。

ところで、すでに暗示した大変大事な点を忘れてはなりません。限界のない愛からほとばしり出る光は、私たちが住んでいる世界を開くだけではなく、次第に自分たちの命になっていきます。つまり、聖霊の内なる導きに忠実であればあるほど、私たちは、より深いレベルで善を行い、心は、聖母、主イエス、御父のみ心に似たものとなっていきます。それに応じて活動は、人間の歴史の中に愛と平和という神のみ国を建設していくのです。というのも、私たちの内なる救いは全世界の中に反映し、自分と世界と宇宙の救いのために、神の協力者になっていくからです。言い換えると、救われている私たちの活動は、単なる人間的な実を結ぶのではなく、聖霊の実を結んでいくのです。やはり、救われるということは、聖霊を受けることであり、聖霊との協力の結果、人間の世界とその歴史が変貌され、神化されていくのです。

J. E. Perez Valera S. J.